

主の昇天

2017.5.28

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

第一朗読 使徒言行録 1・1-11

第二朗読 エフェソ 1・17-23

福音朗読 マタイ 28・16-20

今日、わたしたちは主の昇天の祭日を祝っています。教会において祝われるこの祭日が、カトリック信者としてのわたしたちにどのような喜びをもたらす祝祭日であるのか、そのことをあらためて心のうちに噛み締めながら、この感謝のミサをともにおささげしたいと思います。

今日、わたしたちが祝う主の昇天の祭日は、言うまでもなく、今日の第一朗読の使徒言行録に語られている出来事を祝う祭日です。けれども、そのことがそれぞれの日々を生きるわたしたちにどのような喜びをもたらすのかということが、わたしたちにしっかりと受け止められていなければ、心の底からこの祭日を祝うことが出来ません。逆に言えば、今日わたしたちが祝っているこの祭日が、わたしたちの心を喜びで満たすなら、わたしたちはカトリック信者としての信仰の喜びを自分のものとしたと言えるのです。

福音書に語られているイエスのご生涯の最後は、十字架に架けられて死ぬという形で閉じられます。十字架から降ろされたイエスの遺体は、最後までイエスにつき従った数人の婦人たち見守る中、刑場近くの墓に葬られたと福音書は語っています。十字架の死という特異さを除けば、マリアの子としてこの地上にお生まれになったイエスのご生涯は、この地上に生を受けた全てのわたしたちの一生と同じようにそこで終わったのです。けれども、イエスの地上のお姿を追ってきた福音書は、そこで終わるのではありません。わたしたちが知っているように、十字架の上に死んで、墓に葬られたイエスは、予ねて言われていたとおりに、復活されて、弟子たちに復活のご自分のお姿を現してくださったのです。これは地上の生活を終えたイエスのいわば後日談として語られているのではありません。福音書はその始めから、わたしたちを罪と死の闇から救うために、ご自分のいのちをささげて十字架の上に死なれ、復活された神の子、わたしたちの主イエス・キリストのお姿をわたしたちの心に焼き付けることを意図して書かれたのです。

福音書に語られている復活されたイエスは、たびたび弟子たちにお現われに

なって、信じる事が出来ないでいる弟子たちに、ご自分が復活されたことを示されます。今わたしたちが聴いたマタイ福音書は、そのような復活されたイエスの弟子たちへの最後の現われの場面を語っています。そして、弟子たちに対する復活されたイエスのこの最後の現われの場面をもって、マタイ福音書は閉じられています。

けれども、マタイ福音書をこの終わりまで読んできた人は、この終わりをもって、マタイ福音書の中に語られてきたことが終わったのではないことに気付くはずです。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」これが、マタイ福音書を締めくくる、復活されたイエスの最後のおことばです。そして、このおことばは復活されたイエスのおことばとであるがゆえに、そこで言い表されているとおりに、この世の時空を越えて、世の終わりに向って響くイエスのおことばです。マタイ福音書の作者はそのような意図をこめて、このイエスの最後のおことばを書き記し、それをもって、筆を置いたのです。

マタイ福音書が書き残した、イエスのこの最後のおことばは、どのようにして、世の終わりに至るまで復活されたイエスのおことばとして響き続けるのでしょうか。

「わたしは世の終わりまで、あなたがたと共にいる。」という最後のおことばに先立って、イエスが弟子たちに語られたおことばを、今日の福音の中でわたしたちは聴きました。そこには次のようなおことばが響いています。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、全ての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなた方に命じておいたことを全て守るように教えなさい。」このようにして、イエスのあの最後のおことばは、世の終わりまで響き続けるのです。

復活されたイエスは、今や、父なる神の御許に昇って、その右の座に就かれます。これが、日曜日のミサの度ごとにわたしたちが唱えている、昇天されたイエスに対するわたしたちの信仰宣言です。父である神の御許に昇って、その右の座に就かれたイエスは、父である神から天と地の一切の権能を授けられたお方として、わたしたち全ての者のメシア・救い主、イエス・キリストとされたのです。そのイエスに遣わされた弟子たちの働きを通して、復活され、天に昇られたイエスをメシア・救い主・キリストと信じる者たちの教会が誕生したのです。その弟子たちから始まる教会において洗礼の恵みを受け、イエスが弟子たちに託された教えを受け入れた、世の終わり至るまでの全てのキリスト者の心のうちに、イエスが弟子たちに残されたあの最後のおことばは響き続けているのです。こうして、福音書の中に記されているイエス・キリストは、あのおことばのとおり、今ここに生きるわたしたちの人生に関わるお方となって

くださったのです。カトリック信者として生きるわたしたち一人ひとりの人生に共にいてくださるお方となったのです。今日わたしたちが祝う主の昇天の祝いは、このことを祝っているのです。

天に昇って、父である神の右の座に就かれたメシア、イエス・キリストは、今日の使徒言行録の昇天の物語に語られているように、そして、わたしたちがミサの中でその信仰を宣言しているように、再びわたしたちのもとに来られ、わたしたちの全てを最終的に裁いてくださいます。このことも、今日わたしたちが祝うイエスの昇天の中に含まれている信仰の神秘です。

最後の審判を意味するこの信仰宣言のことばは、わたしたちに恐れを感じさせるかも知れません。けれども、果たしてそうなのでしょうか。

もう一度、今日のマタイ福音書のイエスのおことばを思い起こさなければなりません。「あなたがたは行って、全ての民を私の弟子にしてください。彼らに洗礼を授け、わたしが命じておいたことを全て守るように教えなさい。」このように言われたイエスがわたしたちの全てを最終的に裁いてくださるのです。イエスへの信仰によって、イエスの弟子となったわたしたちの全てを裁いてくださるのです。そのイエスは、「世の終わりまであなたがたと共にいる。」と仰ってくださいます。この世に生きるわたしたちの、それぞれの人生の中で経験するすべてのこと最終決着は、わたしたちが信じる、わたしたち全ての者のメシア、救い主イエス・キリストのみ手に委ねられているのです。このような信仰は、わたしたちの人生の全ての日々に、あるべき緊張感を与えるとともに、言い知れぬ解放感をもたらすものではないのでしょうか。

全てを、父なる神の右の座におられるわたしたちの主イエスのみ手に委ね、その主に従う信仰者としての日々を生きる恵みを願って、主の昇天を祝う今日のミサをおささげしたいと思います。